

八戸

技能訓練通じて 仕事見つめ直し

施設職員ら40人研修

八戸市を中心とした福祉施設の職員らでつくる生活支援ネットワーク「ライフ」(山崎雄一代表)は14日、八戸市福祉公民館で研修会を開いた。障がいのある人の相談に当たる日ごろの仕事を見つめ直すようと、約40人がソーシャルスキルトレーニング(社会生活技能訓練)を体験しながら、より適切なコミュニケーション



話し合いの結果を模造紙に
まとめて発表する参加者

の取り方を学んだ。

八戸学院大学人間健康学科の関川幸子教授が講師を務めた。参加者は男女1人ずつペアになり、自己紹介などをしながら、相手の返事が「はい」「いいえ」で済む「閉ざされた質問」より、相手が自由に考えられる質問の方が会話が広がることなどを実感。何を話すかよりどう話すかが大事で、そのためには目線の高さ、表情、視線などが重要になることを学んだ。

最後に4人ずつグループになり、支援者に問われることは何かを討議。結果を模造紙にまとめ、相手への愛情、やる気、努力が大切などと発表し合った。関川教授は「その場にふさわしい自分の考えや要求などを、今よりもっと上手に相手に伝えられるようになること」と結んだ。

むつ市から参加した大室広之さん(46)は「いろいろな意見を聞いて、原点に戻って自分を見つめ直す機会になった」と話していた。

(館花光秀)